



EAPEA ニュースレター

2011年6月18日
第2号

発行元：NPO 法人東アジア政経アカデミー

発行元連絡先：〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-64-5 グレイスビル 402号 電話&FAX：03-5944-1779

URL：http://www1.ocn.ne.jp/~eapea/ e-mail：eapea@diary.ocn.ne.jp

この号の内容

- 1 冒頭挨拶
 - 日中韓首脳会議に思う 研究・調査活動報告①
 - いたばし政策塾「公開講座」
 - 第4回日韓政策フォーラム開催
 - 2 研究・調査活動報告②
 - 全羅南道新安郡島嶼探訪
 - 3 会員からの便り①
 - 河正雄コレクション「故郷」展に思う(河正雄)
 - 東日本大震災に対する韓国の対応(佐々木憲文)
 - 公務員人生を振り返って(松浦勉)
 - 大震災で感じたこと(佐藤圭介)
 - 4 会員からの便り②
 - 偶然の徳恵翁主追慕祭(薄葉威士)
 - 板橋区における国際交流の現状及び展望(長瀬達也)
- 研究・調査活動報告③
- 「愛の黙示録」上映会盛況！
- お知らせ
- 木浦訪問回募集
- 編集後記

日中韓首脳会議に思う 東アジア政経アカデミー代表 永野慎一郎

第4回日中韓首脳会議が5月21日～22日、東京で開催されました。会談に先立ち3国首脳は福島県の被災地を訪問し、東日本大震災の犠牲者たちに花を捧げました。日中韓3国の距離が短くなったことの表れでもあります。

思えば、18年前の1993年12月、上海で開催された国際会議において、東アジア地域の平和と安定の方策として、日本、韓国、中国の首脳会談を定例的に持ち回りで開催してはどうかと提案したことがあります。当初は、アイデアはいいが、実現不可能であるとマスコミ関係者からかわれたことを今でも鮮明に覚えております。理由は、米国が認めないだろうから、米国の意に反することを日本がするわけではない、ということでありました。

その後、状況の変化が生じ、1997年からASEAN首脳会議に合わせて、日中韓首脳会議が開催されることになりました。故小渕恵三総理の提唱で実現されたもので、朱鎔基首相、金大中大統領による第1回会議がマニラで開催されました。2007年11月に開催された第8回首脳会議で、次回の議長役の福田康夫総理が日中韓首脳会議を独立した形で、各国持ち回りでの開催を提案し合意されたものです。福田総理の突然の辞任で、麻生太郎総理主催の第1回日中韓サミットが福岡で開催され、北京、済州、東京と持ち回りで年1回開催されています。

東アジア共同体構想も最近ようやく議論の対象に上っていますが、時期尚早という意見が強いようです。しかし、準備は必要であり、いずれ実現されると信じております。

いたばし政策塾「公開講座」

1月28日、大東文化会館会議室で開催された「いたばし政策塾」(板橋区福祉部長松浦勉・大東文化大学教授中村昭雄・板橋フォーラム代表鈴木好行共同代表)主催の2011年第1回「公開講座」の講師として招待された永野慎一郎東アジア政経アカデミー代表は、「韓国の政治文化と地方自治」～最近の東アジア情勢を背景に～と題して講演を行った。

講演は、大統領選挙、国会議員選挙、地方自治体の長および議員の選挙結果のデータを基に解説し、韓国の政治文化の日本との類似点や相違点を分析し、日韓両国は相互依存関係であることを踏まえ、過去を清算し、未来に向けて互いに学び合いながら共存共栄の道を探るべきであると締めくくった。

参加者の一人は、ブログで、“楽しかった”しかし“恥ずかしかった”。同じアジア人として何も知らなかった。知っていた内容にも多くの誤解と偏見があった。“お互いに素直になって、捨てるもの(考え)は捨てて、前向きに(建設的に)行動しよう”と印象を述べていた。このような思いもかけない反響に意を強くした。

第4回日韓政策フォーラム

第4回日韓政策フォーラム(韓国統一研究院主催)が、2011年5月25日(水)午後、信濃町の大東文化大学法科大学院会議室において開催された。「朝鮮半島統一に対する日本の立場と役割」をテーマに、日韓の専門家が参集して議論した。

第1セッションでは、北朝鮮の政治・経済動向について、韓国側から二人の研究者が報告し、第2セッションでは、韓国統一研究院国際関係研究センター裴廷鎬所長が李明博政権の統一構想と統一ビジョンについて報告し、木宮正史東京大学教授が朝鮮半島統一に対する日本

の立場と役割について報告した。

これらの報告に基づき、第3セッションでは、①朝鮮半島統一と東北アジア地域の平和および繁栄、②朝鮮半島統一に対する日本の立場および役割、③朝鮮半島統一と日韓協力についてパネル・ディスカッションを行った。

パネル・ディスカッションは、永野慎一郎東アジア政経アカデミー代表が座長を務め、伊豆見元静岡県立大学教授、岡本厚「世界」編集長、李鍾元立教大学教授、渡辺勉朝日新聞政治部長など、日本の学界、言論界の専門家が集まって議論を展開した。

全羅南道新安郡島嶼探訪 東アジア政経アカデミー代表 永野慎一郎

2011年4月27日～5月8日、5月30～6月3日の二度にわたって、朝鮮半島西南端の全羅南道新安郡の島嶼めぐりをしてきた。新安郡は1,004島嶼（有人島72・無人島932）からなっている行政単位で、総面積654,84 km²、総人口45,294（21,879世帯）の資源に恵まれた長寿村である。少子高齢化が進展し、60歳以上が35%を占め、20歳以下は15%未満。面積は淡路島（592,26 km²）より広いが、人口は淡路島（143,025名）の3分の1以下。60歳台7,596名、70歳台6,268名、80歳台1,697名、90歳台191名、100歳以上7名。90歳以上になると圧倒的に女性が多い。100歳以上は女性ばかり。まさに老女天国なのだ。

しかし、問題がないわけではない。農業・水産業が主であるこの地域は離島現象が激しく人手不足を余儀なくされ、木浦などの都会から日雇い労働者を雇っている現状である。この地域の名産物の天日塩は世界有数の良質の宝庫である。今年は東日本大震災の影響で、韓国国内で塩の買いだめが始まると、塩の値段が6倍、7倍以上

昇し、この地域の天日塩が見直される結果となった。

経済成長が急速に進展している韓国の中でも最も開発が遅れている新安地域の実態調査のための探訪であった。すでに大手企業が天日塩の加工生産に目をつけており、外部の業者が移住し、ネギなどの大量生産を始めている。しかし、天然資源はまだ有効に活用されていない。離農した人々が再び故郷に戻り、今まで培った技術と経験を活用すれば村は活気に満ち、生産活動が活発になれば、外部からの投資も入り、住みやすい島嶼になるのではないかと思う次第である。

島嶼であっても陸地と橋で連結され、道路も整備されているので、木浦から快速船でほとんど1時間で行ける距離である。また、フェリーも運行しているので、自動車でも島を回れる時代である。夏季になると海水浴場を訪れる観光客も多い。

自然と共生し、環境を生かしながら新しいタイプの地域づくりが必要であると考えます。



島間を結ぶ橋



のどかな農村風景



天日塩の塩田



老人センターは老人たちのたまり場



風力発電



金大中元大統領の生家



早朝から野良仕事に出かける農民たち



田植えも共同作業



海面に広がる黒山島の養殖場



廃墟化している島の家々



黒山島を訪ねて



木浦から115km離れた紅島の美しい風景



機械化している田植え作業



馬山島で出会った島の探検家たち



平和民主党代表韓和甲氏と小船をチャーターして島めぐり



農村の生活を支えている働き手のばあさんたち

河正雄コレクション「故郷」展に思う

光州市立美術館長名誉館長 河正雄

父母の故郷、全羅南道靈岩は王仁博士の生誕地である。2007年、靈岩郡の要請により河正雄コレクションの美術作品を寄贈したことが縁となった。郡立河美術館が建立され、今秋オープンすることとなった。その開館記念展のメインテーマは「故郷」である。

私の故郷、田沢湖町（現秋田県仙北市）には戦後まもなく移住し、高校卒業の日まで過ごし、青春の日々を送った場所である。靈岩郡立美術館に寄贈することになっている作品が仙北市立角館町平福記念美術館で展示（2月7日～3月27日）されることとなった。

私はこの展示会を迷うことなく「故郷」展と銘した。市をあげて歓迎してくれた温かい情。河正雄コレクションの意義を評価し、私の存在を誇りにしてくれることは、故郷に生かされた人生の冥利である。

「ソウル便り」—東日本大震災に対する韓国の対応

（ソウル駐在）佐々木 憲文

東日本大地震被災者の方々の、ご冥福とご回復を心よりお祈り申し上げます。大地震・津波の様子は、韓国でも詳細に報道され、日本支援の動きは驚くほど早く広がりました。

ネットユーザーから募金運動がはじまり、宗教団体や市民団体、メディアが救護物品・募金の受付、救護派遣に乗り出しました。韓流スター、子どもから年寄りまで、社会各層の人々が参加してくれました。街角には“ガンバレ、ニッポン！”の幟と募金箱が置かれました。反日・抗日団体も、「蛮行は忘れられないが、いまは苦しむ日本国民を助けるのが先」と支援への賛同を表明しました。

マスコミは、“日本は最も近い隣国だ。過去の歴史は歴史であり、人道主義は人道主義だ。過去の歴史に縛られて隣人の痛みを背けるのは歴史の奴隷になることだ。いまは相手の身になって日本に支援の手を差し伸べる時だ。”と訴えました。

ある牧師の“神の裁き”発言は直ちに批判され、日本の痛みを揶揄する人たちに対して憤り、日本を応援する心に対しては限りない拍手を送り、深い傷を負った方々を助け、日

続いて「故郷」展は駐日韓国大使館韓国文化院の招請を受け、韓国文化院ギャラリーにて開催（5月10日～14日）される光栄に浴した。

一衣帯水、韓国と日本は兄弟の国と悠久の歴史が教えている。故に靈岩の故郷も秋田の故郷も私の故郷、祖国であることは普通の理であり、宝なのだ。

国と国は力を持って争いあっても、二つの祖国を愛し信頼しあえる兄弟になりさえすれば、と私は愛を分散し続けてきた。その愛が韓国と日本の友好親善の架け橋になるならば、一在日として光栄である。

「故郷」展が架け橋となって靈岩郡立河美術館と仙北市立角館町平福記念美術館が兄弟美術館となること、そして両国の文化文芸振興と交流発展に寄与することを願っている。（当アカデミー理事）

本の皆様に勇気を与えられればと思う韓国人が列をなす雰囲気でした。

“号泣も、買い占めも、略奪もなく” “惨禍にも落ち着いた日本国民” “惨事でも配慮忘れぬ文化” “大災害にも屈しない思いやり” “当座の食べ物、飲み物に困る生き地獄のような状況でも、誰かのせいにして恨んだりすることなく、秩序ある市民意識を見せ、地震に驚いた世界を今一度驚かせている”、と日本賛美の取材記事が連日特集掲載されました。

集まった寄付金額は、他国支援のものとしては歴代最高額とのことですが、金額の多寡で測ることはできませんが、日本への哀悼、同情、激励の深さであることは確かです。“光復（解放）後、日本に対してこのように温かい感情が広がるのは初めて…”でした。

残念なことは、教科書問題でした。マスコミも、なんだ日本は！と論調を変えました。コメントは控えませんが、だからこそ行政やマスコミとは異なった位置にある、東アジア政経アカデミーの役割が、今後一層重要になると心に期す昨今です。

公務員人生をふり返って

松浦 勉(前板橋区福祉部長)

1973年、第一次石油危機の年に採用され、未曾有の大震災の月に定年を迎えた。まさに、危機に始まり危機に終わった私の公務員人生。38年間、11の職場で仕事をした。どれだけ組織に貢献し、顧客である区民の役に立ててきたのか、後悔と反省ばかりが頭に浮かぶ。

一方、多くの師や課題に恵まれて今の自分があると実感もする。現場主義や国際感覚を植え付けてくれた大学の恩師は、都庁の局長に転身された後も面倒をみてくれた。また、困難な課題を与え見守り指導してくれた上司、苦勞を共にした同僚・部下。励まみや苦言を呈してくれた関係区民や団体などからも沢山のことを教えられた。

欧州への派遣研修、大東文化大学の講師兼任、韓国での会議参加も貴重な勉強の機会になった。4月からは区再任用として公文書館に勤務。区史編纂や文書事務の経験を活かせる職場に恵まれた。当アカデミーをはじめ、人脈と活動領域を広げながら充実した第二の人生を歩んでいきたい。

大震災で感じたこと

ディーコープ(株) 佐藤 圭介

災害ボランティアとして東日本大震災の被災地へ2回行ったが、被災地で出会った光景は、東北人の逞しさと、それを支える全国各地からの支援要員・世界各国からの緊急援助隊の姿であった。

大震災に際して、隣国韓国からも救助犬2頭・救助隊員102名等からなる緊急援助隊が結成され、各国に先駆けて被災地に入り活動したという。また、外務省のHPには、世界各地でのエピソードが掲載されているが、ソウル市の中学生のエピソードが心に残った。かつて駐韓日本大使と懇談したことがある中学生が地震直後に誰よりも早く、「日本の国民たちが深い悲しみに沈んでいると聞き心が痛い」と言って、小遣いから10万ウォンを義捐金として送ったという。

深い悲しみに沈み、絶望を感じた大震災であるが、世界が日本を応援し、そして我々と共に歩んでいることを痛感する。我々は、何としても、この悲しみ・苦しみから立ち直らなければならない。それでこそ、世界への恩返しができるはずだと信じる。今、この国に生きる者として、世界の中の日本であることを今一度認識したい。

偶然の徳恵翁主追慕祭

中央日韓協会理事 薄葉 威士

4月の某日、ソウル市郊外南楊州市の洪陵(高宗の陵)に出かけた。5年前に来たときは見るからに小さな田舎の駅だった金谷駅の余りの変わりように驚いたが、もっと驚いたのは、当日正午から徳恵翁主の追慕祭があるということだった。洪陵の近くに徳恵翁主の墓があるということは聞いていて、できれば墓に詣たいと思っていたが、全く偶然に追慕祭に出会った。「우리皇室사랑회」(我が皇室を愛する会)という団体の主催であった。

徳恵翁主については、1年半ほど前に韓国で「덕혜옹주」(徳恵翁主)という小説が出版され、小説部門のベストセラーになり、その存在が再び認識されたとはいえ、韓国でさえ余り知られていない。特に若い世代では、公主と翁主の区別さえまならないようだ。

第26代朝鮮王高宗の末娘として生まれ大事に育てられたが、日本の朝鮮統治という時代の波に翻弄され、幼少期から日本での生活を強いられる。そして政略結婚、精神の病、離婚、一人娘の失踪(自殺)等々の不幸を一身に背負い、晩年韓国への帰国は果たせたものの、不本意な一生を終ったという、我々日本人にとってはまことに心の痛む話である。

洪陵の裏の緑に覆われた小作りな墓の前での追慕祭に偶然参列でき、徳恵翁主と何かお話ができたような一時であった。

「愛の黙示録」上映会盛況!

当アカデミーの企画、板橋区福祉部と板橋区社会福祉協議会の主催で行われた日韓合作映画「愛の黙示録」上映会が約300席の会場が昼も夜もほぼ満席。開場1時間前から長蛇の列。社会福祉協議会のネットを通じてのPRや板橋区広報誌『広報いたばし』への広告が効いたか、申込開始日の朝9時には電話やFAXが殺到し、2時間で満席。韓流ブームの表れか、福祉への関心かは分からないが、人気ぶりに関係者は驚くばかりであった。

東京都板橋区文化会館において上映された「愛の黙示録」は、韓国木浦市において女手一つで戦争孤児3000人を養育した高知県出身田内千鶴子(韓国名尹鶴子)さんの生涯を描いた映画である。人気ぶりに気を良くした

木浦訪問団募集!

主催：日本・木浦圏交流ネットワーク
期間：9月21~24日(3泊4日)
費用：約86,000円(申込金、交通費、宿泊代・食事代等含む)

参加予定人数：30名

訪問先：1. 木浦共生園、旧日本領事館・木浦近代歴史館等日本関連建物
2. 木浦市内文化施設及び産業施設
3. 霊岩・務安・新安地区視察(貸切バス：木浦市提供)
4. 木浦市など行政機関訪問、市民団体との交流

※ 木浦市長主催歓迎会(予定)

問合せ先：NPO法人 東アジア政経アカデミー
Tel&fax 03-5944-1779
e-mail: eaapea@diary.ocn.ne.jp

板橋区における国際交流の現状及び展望

板橋区議会議員 長瀬達也

板橋区における外国人登録者数は2010年1月1日時点で18,471人であり、区内総人口に占める割合は3.4%、登録者数は1997年以降増加しています。このように国際化が進む板橋区では、区と財団法人板橋区文化・国際交流財団が連携し国際交流・支援事業を行っています。

区としては主に海外との友好交流関係の締結や板橋区を代表する交流事業、行政施策に関連する国際化、多文化共生施策などを行っています。具体的には、カナダ・バーリントン市、モンゴル国、北京市石景山区、マレーシア・ペナン州、イタリア・ポローニャ市と姉妹友好都市です。

財団法人板橋区文化・国際交流財団では、区が築いた友好交流関係に基づき、区民参加により姉妹友好都市等との交流事業や地域の外国人との交流事業を推進しています。現在まで外国人による日本語スピーチ大会や姉妹都市への区民ツアー文化団体派遣などの事業を行ってまいりました。

板橋区議会においても、日中、日蒙議員連盟があり、相互の交流を図っています。また平成21年6月には日台、日韓議員連盟が発足いたしました。

多様な価値観や諸外国への理解を促進し、板橋区を開かれた地域社会にしていくことと共に、多文化共生のまちづくりを進めてまいります。

田内千鶴子さんのご子息田内基氏が映画関係者に呼び掛け、ソウルから金洙容監督がわざわざ来てくれ、脚本家の中島丈博氏、主演女優石田えり氏も駆け付けて花を添えた。これだけの関係者が出揃うことは滅多にないことで、予想外の貴賓を迎えた会場は大喜びであった。坂本健板橋区長も駆けつけて主催者を代表して挨拶された。

映画上映前に映画の撮影地である木浦市の紹介映像が流された。木浦市の映像は、映画の場面とは比較にならないほど近代的なビルが林立し、街並みも整然としていた。その発展ぶりに観客も感心していた。

板橋社会福祉協議会のみなさん、板橋区福祉部長(当時)松浦勉さんにお礼申し上げる。また、映画を提供してくれた社会福祉法人こころの家族田内基理事長に感謝し、ご多忙中出席し挨拶された坂本健板橋区長にお礼を述べたい。



前列左から金洙容監督・石田えり氏・田内基氏

■編集後記

創刊号の編集後記で2011年が良い年になるよう祈願していたにも拘わらず、3月11日には東日本大震災が起き、多くの方々が亡くなられ、未だに生活再建の目処が立たない方も少なくありません。1日も早い復興を祈願せずにはいられません。東京も一時期混乱しましたが、何とか落ち着きを取り戻し、ニュースレター第2号も5ヶ月ぶりの発行となりました。ご多忙の中、ご執筆をご快諾して戴いた理事・監事・会員の方々には厚くお礼申し上げます。次第です。(大杉由香)